

T O
S
B A

UPER AQUA RIUM

TOBA SUPER AQUARIUM



ISSN 0916-9725
地球で遊ぼう！
田んぼはカエルの楽園だ！
内山 真由

●TSA特別講座

一寸待った、

その「お土産」は大丈夫？
大西 正浩

人魚の棲む海



獣医のきもち
記録は宝物

●鳥羽水族館いきもの図鑑

●海の生きものたちに出会いたくて

サギにご注意！！

●三重の水辺紀行

●水槽百景

2005
SUMMER
No.47



特集

ある日、ある時……
思い出いろいろ半世紀



鳥羽水族館

TOBA 2005・夏 SUPER No.47 AQUARIUM CONTENTS

●楽しい情報をホームページで公開しています
<http://www.aquarium.co.jp/>
 携帯端末(全機種) <http://2555.jp.io/>



●フロントページから

「命の力」

最近の子どもたちには「生きる力」が不足しているらしい。骨はボキボキ折れるし、虫は大キライ、そして自分で考えるのも苦手なのだそう。でもムリもない。与えられたものだけで育ったら、生きる力なんて大して必要ないのだから。

それに比べて野生動物の誕生などはみごとなものだ。たとえば生まれて間もない子ジカが、数時間後にはよたよたと立ち上がり、じきに母親の乳をさぐる姿をテレビなどでご覧になった方もいるだろう。その頼もしさには心がときめいたはずだ。

もちろん水中で暮らす生きものだってひけを取ってはいない。それこそ魚などは、ちりのように小さな姿で生まれた瞬間から、一度きりの生き残りレースの参加者となってしまうのだ。しかも、自分が食べられないようにしながら、他の命をいただくという相反する宿命も背負っているのである。DNAに刻まれた情報を頼りに、経験を重ねて生きぬく彼らには、どんなに小さくても威厳がある。

それに比べるとヒトの赤ちゃんのどれだけ弱いことか。自分で歩くことも出来なければ、周りすらよく見えないほど未熟な状態で生まれてくる。私たちは親や仲間の助けがなければ、明日の命も危うい生きものなのだ。

でも、言われるように子どもたちの生きる力が初めから欠けていたわけではない。泣いたり甘えたり、精一杯にアピールする力はある。その原因は子どもの成長につれて、私たち大人が完成させたものを多く与えすぎたことにある。

ここで私たちは周りの生きものたちをしっかりと見習って、少しばかり試したり失敗しながら、歩むことが必要なのだ。そうでないと、このままでは体だけでなく心までもが弱い生きものになってしまいそうで心配なのである。

■高林 賢介

Front Essay

創立50周年を迎えて 中村 幸昭 01

特 ある日、ある時...
集 思い出いろいろ半世紀 片岡 照男... 02

三重の水辺紀行【42】
海藻の流れつく浜 06

【海の生きものたちに出会いたくて(42)】
サギにご注意!! 若林 郁夫 08

あっぱれ! キーワード水族館【11】
歯の巻 10

TSA特別講座【11】
一寸待った、その「お土産」は大丈夫?
大西 正浩 14

【地球で遊ぼう! -6-】
田んぼはカエルの楽園だ!
内山 りゅう 16

【水槽百景 -11-】
アシ原水槽 18

人魚の棲む海 -2- 「トレス海峡(1)」
浅野 四郎 19

【獣医のきもち】
【6】「記録は宝物」
長谷川 一宏 20

鳥羽水族館 いきもの図鑑
特徴ある3羽のフンボルトペンギン 21

【パー子のちょっとおじゃましま〜す -11-】
通信販売 22

【とっておきのウラ話】
ああ、恐ろしや恐ろしや
富田 傑 23

「体験まるごと水族館」
親子それぞれの視線でイロワケイルカ飼育に挑戦! 24

読者のページ 25

イベント紹介コーナー 26

【出来事 & クローズアップ】
平成16年12月1日〜平成17年5月31日 28

創立50周年を迎えて

■館長 中村 幸昭

昭和二十八年の秋、鳥羽地方を襲った台風十三号は猛威をふるい、当時、海岸近くの中之郷の生家は床上浸水となった。東京の下宿に「台風被害あり」の電報が届く。その頃の志摩半島は台風銀座で、慣れっこになっていた。帰らなかつたら続いて、「母、病気、すぐ帰れ」と。これには私も驚き、親不孝してはい



けないと急いで帰郷。生家は水浸しで、母は二階に寝ていた。涙を浮かべて、長男の私に帰ってきてほしいと言われ、遂に意を決した。戦後の昭和二十一年から大学に進み、学生の身で銀座で服飾店を経営、映画「君の名は」で大ヒットした「真知子シヨール」を考案、有頂天になっ

ていた。その後、朝日新聞東京本社に入り、学芸部に配属され、天文学から考古学まで幅広く猛勉強中であつた。せっかくの新聞記者生活を辞めるのは辛かつたが、母の病気には勝つことができなかつた。

しばらく家業の鮮魚問屋、丸幸を手伝っていた。昭和二十六年、隣りにミキモト真珠島がオープン、今の

ような橋もなく、小舟を漕いで渡るのがやつとだつた。その観光客が、丸幸の生簀で水揚げする魚を珍しそうに見学に来る。

四代も続いた鮮魚問屋だから、魚を集め、生簀で長期飼育するノウハウは得意の巻である。いつそのこと出荷を止めて、水族

館を造り、大勢の皆様にご覧に喜んでもらつたらどうかと家族会議で決まつた。弟は魚専門の仕事に没頭、父より、新しい水族館経営は私に一任ということになり、一年間、水族館、博物館、

旅行社、修学旅行などについての勉強を積む。そして昭和三十年五月十五日、天然水族館を柱に、全国で二十六番目の水族館としてデビューしたのである。

地元の人の一部からは、こんな小さな港町に水族館を造つても三年もたないだろうと囁かれたことも。もつとも、あるのはミキモト真珠島、

鳥羽湾巡り観光船が数隻、日和山工レバーターで、旅館は僅か五軒、年間せいぜい十万〜二十万人の観光客だつたのである。私は負けず嫌いで、「よし、今に見ておれ」とハングリー精神でファイトを内に秘めていた。開館前からPR活動に専念、パブリシティの大切さ、エージェン

とのタイアップ、修学旅行の誘致、日本初ガイドの説明など、年中無休で頑張つた。人真似はやりたくない。日本で、世界で初めに挑戦しようというポリシーは終始一貫してきた。そのためには当然リスクはつきもので失敗も数知れず、さらに試練を乗り越えていくのも仕事だと思つた。

そして当初から、見せ物や金儲けだけではなく、夢とロマンを、感動していただくための博物館を目指してきた。数多くの海外での学術的な海洋生物調査や、スナメリ二世の誕生、ジュゴンの世界最長飼育記録、日本初のラッコの赤ちゃん誕生、アフリカマナティやバイカルアザラシの導入など、面白い話題を提供し続けてきたことも五十年の想い出である。台風と母の病気が、私と水族館との運命を決したことは不思議なことだつた。半世紀を回顧すると、その想い出はつきることがない。

特集

ある日、ある時…

思い出いろいろ半世紀

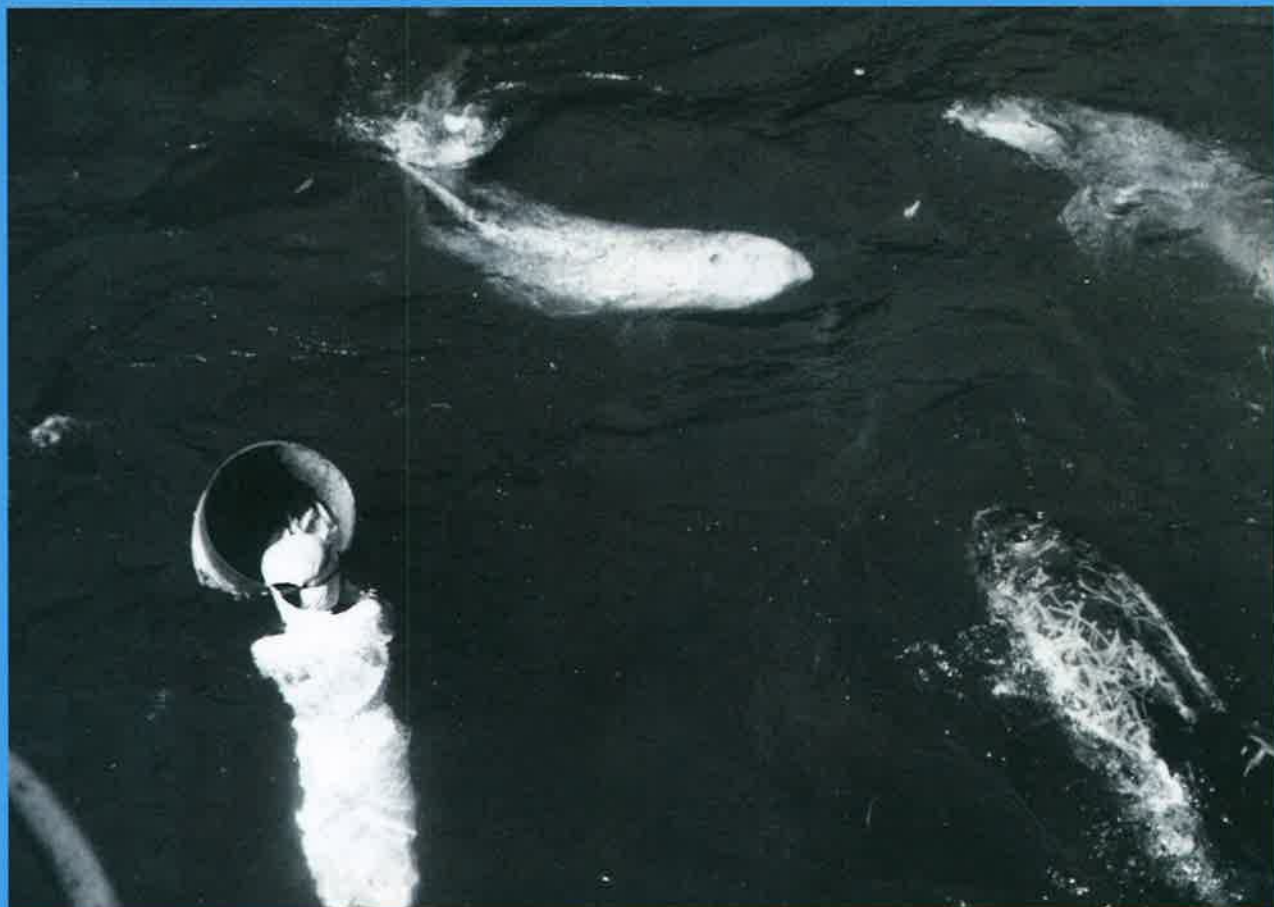
鳥羽水族館顧問
片岡 照男



幸いなことに、私は鳥羽水族館の50年の歴史の中で多くの生きものたちに接し、そして魅力的な人々と出会うことができた。水族館の技術論やスペシャリストとしての海洋生物への思いは専門誌で披露してきたので、ここでは、ラッコもジュゴンもいなかったひと昔前の思い出をご紹介します。

ガイドさん

鳥羽水族館は創立当時から館内の施設や飼育生物をガイド付きで案内する観客サービスが好評だった。若い女性ガイドさんたちは、みんな親切で優しく美人揃いで、鳥羽を訪れる修学旅行生たちや観光客の人気を集め、水族館のガイドは地域の女性たちの憧れの職場でもあった。彼女たちはよく勉強し明るく、そしてよく働いた。創生期の鳥羽水族館が伊勢志摩国立公園の観光スポットとして定着する過程で、彼女たちの活躍を忘れてはならない。仕事が終わった夏の夕方には、時々彼女たちと西瓜と飲み物をぶら下げて近くの佐田浜へ海水浴に出かけたりした。



海女とイルカたち



コトヒキ釣りを楽しんだ妙慶川



1955年頃の鳥羽



先進的だった水族館ガイド

全員集合・釣り採集

「昼食後に釣り採集をする。全員集合」・・・昔の鳥羽水族館の横には妙慶川が流れていた。夏の観光シーズンが終わって、秋風が立ち始める頃になると、コトヒキの稚魚たちが岸辺に群れ遊ぶようになる。飼育スタッフは「釣り採集」の名目で公然と水族館の敷地から釣り糸を垂れて、他の職場では考えられないコトヒキ釣りという「仕事」に熱中した。

午後のひと時に100匹も釣り上げる名人級もいれば、餌ばかり取られている心やさしい人もいる。そして数日で2トンほどの水槽には、地味ながらも白銀のウロコが美しいコトヒキが群遊する見事な展示が実現し、余剰のコトヒキは他の水族館との資料交換に活用された。

イルカ池の チヨウチヨウウオ

昔の鳥羽水族館には自然の海面を仕切ったイルカ池があって、給餌を兼ねた海女さんとの競演やバンドイルカの豪快なジャンプを見せていた。毎年襲来する台風の後では、仕切網を抜けて溜まったゴ

ミの始末が大変だった。しかしながら、この仕切網には南方系魚類の幼魚たちがよく集まり、特にチ

ヨウチヨウウオ類の潜水採集は、私たちの楽しみのひとつだったし、この採集は実践的な潜水訓練にも



1959年頃…



海中は研究室だった（中日新聞記事より）



研究も盛んに

なった。水中で魚との微妙な駆け引きの末に、手網で掬い取る技術を会得するには、潜水にも熟達していなければならぬ。仕切網に背を向けると必ずダイビング・ギアのどこかが引つかかり、水中着脱が要求される。魚との間合いを詰めている大事な時に、バンドウイルカが「私王遊ンデョー」とばかり、ダイバーの背中を押してきて、折角の採集チャンスを失うこともしばしば。笑ったようなイルカたちの顔を見ると、怒る気にもなれない。

私たちはイルカ池の潜水採集によって、多くの南方系魚類の幼魚が秋の鳥羽湾に回遊して来ていることを知った。残念ながら鳥羽の冷たい冬の海は彼らの生存を許さず、無効回遊という非情な運命が待っている。せめて保温された水族館の水槽でひと冬を送って欲しいと思ったものだった。

一期一会

1975年10月、昭和天皇・皇后陛下が鳥羽水族館をご訪問され、中村館長が魚類全般を、私が鳥羽・志摩の無脊椎動物の飼育展

示についてご説明することになった。著名な生物学者の昭和天皇のご案内については特に緊張するとはなかった。私の故郷・五ヶ所湾の内湾に生息する美しいオオハナサンゴの生態展示と骨格標本を比較しながら興味深くご覧頂いた。

そして鳥羽湾と志摩半島のエビ網で採集される貝類の展示をご説明すると、陛下の有名な「あつ、そう」の相づちが、いつの間にか「そうかい、そうかい」に代わっていることに気がついた。もしかして貝の話だから「ソウカイ」かな？思わず「陛下はジョークがお好きで・・・」と言いそうになった私は、慌てて言葉を飲み込んだ。両陛下のご見学は予定を大幅に延長し、侍従が館長の尻をつつき、館長が私の尻をつついて時間短縮を催促するのだが、ご熱心な陛下に「お急ぎ下さい」とは言えなかった。ホテルに戻られた陛下のご感想は「楽しかった。もっと時間が欲しかった」だった。

ある日、「来客です」との電話で、ゲートに行くと、東京大学海洋研究所長の西脇昌治博士と数人の紳士が待っていた。その中のお一

人が日本で最初にノーベル物理学賞を受賞した京都大学基礎物理学研究所長の湯川秀樹博士だった。



魚の治療（1965年頃）



魚の病院前で（1965年頃）

西脇先生は鯨類など海生哺乳類の世界的な権威で海外の研究者と共に鳥羽水族館へ何度もお出でになったり、スナメリの研究で指導を頂き、後年は海牛類の分布調査で一緒にさせて頂いた、私の生涯に忘れ得ない海獣類研究の「ボス」のお一人である。湯川博士とは初対面で私は緊張した。お茶を飲みながら歓談の後、所用で京都にお帰りになる湯川博士を私のオンボロ車で鳥羽駅までお送りした。穏やかな風貌の湯川博士の頭の何処に、あの難解な中性子理論が潜んでいるのか不思議に思った。



50年の進化

理論物理学者との短い一期一会だった。

「魚の病院」は1965年4月に開館10周年を記念した飼育研究施設として新設された。2年か3年ほど経った頃の、ある日の午後、実験水槽の前に立っている子供連れのご家族に声をかけられた。魚の病気について説明して欲しいとのことだった。話をしながら気がついた。私が今喋っているのは、鳥羽の神島を舞台にした小説「潮騒」を書いた三島由紀夫さんとそのご家族だった。「水族館を見てから神島に行く」と言いつて階段を下りていかれた。それからまた数年が経った1970年11月25日、私はテレビのニュースを見て仰天した。日の丸の鉢巻きに軍刀をかざした三島由紀夫さんの映像が流れ、東京の自衛隊本部で壮絶な自決をして果てたのだった。魚の病院でお会いした物静かで小柄な小説家と、この事件とのギャップをどう埋めればいいのか、私には不可解な突然の最後だった。

リクレーション、教育、そしてサイエンス



後輩と共に（現在）

バクテリアから鯨まで、昔も今も、水族館は興味尽きない展示資料と研究材料の宝庫といっても過言ではない。また貴重な飼育生物の命を見つめながら展示の充実に日夜努力を惜しまないスタッフも鳥羽水族館の宝物である。

水族館が社会的に果たす役割は、資料の収集と保存、展示、調査研究にあるとされ、さらにこれらの活動を通じて社会教育や自然保護にも貢献し、保有する膨大なデータは広く一般に公開することが求められている。

鳥羽水族館が魅力ある施設として人々に愛され、海と生きものとの自然の素晴らしさをアピールし続ける知的な窓口であることを期待したい。

自然あふれる三重の水辺を巡る

三重の水辺紀行

—第42回 海藻の流れつく浜—



桜の花もすつかり舞い散り、青々とした葉が目まぶしい頃になると、海岸にはたくさんのお花が打ち上げられるようになります。地上の植物ならば「いざ、これから」というときなのに、まったく不思議なものです。今回はそんな海中世界に思いをはせながら海藻拾いに興じました。

海岸をぬける風はまだ冷たく、薄着では少し心許ないものです。しかし日差しは冬とは違い、やわらかく包み込むような温かさを与えてくれます。高台に揺れるタンポポの黄色には気持ちが悪くありません。

空を仰げばトビが3羽。山のほうからゆつたりと旋回しながら現れると、そのらせんをずらしながら海上へと姿を移していきます。どうやら浜にうち上がった獲物を探しに来たようです。しかし獲物が無いとわかると、上昇気流に身を預けて羽ばたきもせず戻っていきました。その下の消波ブロックにはウヤカメが翼を広げて羽干しに興じています。こちらのほうは、一見したところみな満腹のようです。死魚を拾うものと生魚を追うもの。じつに対照的な生き方です。

さて、春のうねりによって引き抜かれ、流れついた目当ての海藻

はといえば：海岸の両端にいくと嬉しいくらい山のように積み重なっていました。それは一見するとゴミにしか見えませんが、私にとつては宝の山です。表面のすっきり乾いた海藻を一枚めくると、その下からまだみずみずしいものが光沢を放ちながら出てきます。ふいに透明のノミのようなヨコエビの仲間も飛び出します。彼らは浜にたまった海藻をせっせと食べて掃除してくれているのです。

日が天頂を過ぎた頃、白い浜着に身を包んだ女性たちが集まってきました。今日はちようど地元で「くちあけ」という、いわゆる解禁日。地元のおばあちの明るくなまりのある志摩弁と高らかな笑い、豊潤な海の幸を手でできる喜びを映すように響いていました。白い衣装と青い海のコントラストも印象的です。

長い浜をくたくたになつて歩きましたが、とくべつ多くの生きものに出会うことはできませんでした。しかし、陸と海の出会うこの海岸で、これから夏にかけて現れる命の息吹はしっかりと感ぜられるような気がします。(高林)



打ち上げ直後のアラメ



乾くとまるで骨のよう (アラメ)



うらかな日に羽干し



「おーっ、今日はどうやな?」



石と海藻でアフロ男!

海の生きものたちに 出会いたくて

42

「サギにご注意!!」

●飼育研究部 若林 郁夫



シラサギの中で一番大きな種類のダイサギ

三重県の海岸へバードウォッチングに出かけると、よくサギの仲間たちに出会います。そう、あの首と足が長いツルそっくりの鳥のことです。サギというと、田んぼや川で見かけるイメージが強いかもしれませんが、けっこう海辺にも暮らしています。今回は三重県の海岸で見られるサギたちをご紹介します。

鳥羽から伊勢湾方面の海岸へ出かけると、砂浜の波打際や河口の干潟などで、真っ白な美しいサギたちを見かけます。そしてよく見ると、この白いサギたちには大きいものや小さなものがあることに気がつきます。これらの白いサギたちは、総称してシラサギと呼ばれたりしていますが、いずれも別々の種類で、大きさ以外にも各部の色や行動などが微妙に違ってきます。一番大きくて、へびを思わせるような長い首の持ち主がダイサギです。彼らは水深数十センチのところ立って、小魚が通り過ぎるのをじっと待っています。そして小魚が近づくと、自慢の長い首をさっと伸ばし、一瞬にして

捕まえてしまいます。ダイサギは伊勢湾の海岸では最も数が多い種類と言えるでしょうか。対照的に一番小さいのが、コサギです。海辺をテクテクとせわしなく歩き回り、時々足先をガサガサと震わせて、海底にひそんでいる生きものを追い出して食べてしまいます。足の爪が鮮やかな黄色をしているのがチャームポイントで、また夏には髪飾りのような2本の羽を頭からたらしめています。そしてもう1種類、ダイサギとコサギの中間のサイズをしているのが、チュウサギです。ダイサギやコサギよりもクチバシが太短く、海辺ではあまり多くはありません。干潟などを歩いて、カニなどを捕まえている姿を時々見かけます。このように全部同じに見える白いサギたちですが、よく見ると色々な違いがあつて、なかなか見分けるのも楽しいものですよ。一方、同じ場所でも白いサギたちに混じっている青っぽい灰色のサギがアオサギです。ダイサギと同じくらいの大サイズで、黄色のクチバシがなかなかきれいな種類です。しかし、ちょっ

とお下品なところがあって、「ギヤー」という大声を上げて飛び立つことがよくあります。また、ちよっと食い意地のはったところもあって、毒針のあるアカエイを無理やり飲み込もうとする姿を、これまで何度か見かけたことがあるほどです。

次に鳥羽水族館周辺で見られるサギたちをご紹介します。まず、水族館前の海面に浮かんだイカダの上をウロウロとしているのが、ササゴイです。前に紹介した4種にくらべると、ずんぐりとした体型をしています。イカダの上から今にも落ちそうな前傾姿勢になって魚を捕まえようとしています。サギの中では小さな種類ですが、なかなかの頭脳派らしく、熊本県水前寺公園のササゴイたちは鳥の羽や木の葉を水面に落とし、それを餌と間違えて近づいてきた小魚を捕まえるのだそうです。まさに魚釣りをする鳥と言ったところでしょうか。そしてもう一種類がゴイサギです。ゴイサギは夜になると水族館前の海岸へやってきます。堤防とイカダを結ぶロープにとまり、じっと水面を見つめ、

小魚が通過するのを待ち構えています。宿直の夜などには、そんな真剣な彼らの姿を、屋上から観察するのが私の楽しみにもなっています。時々、懐中電灯で照らして、イタズラしたりすることもありますが・・・。

さて、最後にご紹介するサギは、志摩半島の磯にやってくるクロサギです。シラサギ類とは対照的に全身が真っ黒で、まるでカラスのような姿をしています。クロサギは潮が引いた磯などによく現れ、岩場から岩場へと飛び回って、餌を探します。このクロサギには、翼を丸く広げて水面に影を作るという変わった行動が見られます。図鑑には「魚をおびき寄せているのでは?」と書いてあるのですが、その仕草を見ているとなんだか本当におかしくてたまりません。このようにサギと言っても、色々な種類がいることをお分かりいただけたでしょうか。是非、海辺に出かけたときには、色々なサギたちを探してみてください。ただし、オレオレサギやフリコマサギにはくれぐれも用心を。



全身真っ黒なクロサギ



黄色のくちばしのきれいなアオサギ



海辺には少ないチュウサギ



アカエイを食べようとするアオサギ



足指が黄色いコサギ



イカダの上を歩き回るササゴイ



1 2
3 4



【11】 歯の巻

歯…皆さんももっている歯。
かみついたり、切り裂いたり、
すりつぶしたり…
門歯・犬歯・臼歯に切歯！
形もいろいろ！
今回はそんな歯に大注目です。

- 1：キアンコウ
- 2：アフリカオットセイ
- 3：スナメリ
- 4：オオカミウオ

あっぱれ！

キーワード
水族館

■飼育研究部 高村 直人

『皆さんの歯を見せてください』



ラッコ



コツメカワウソ



カリフォルニアアシカ



ハイロアザラシ



アラレフグ



バラフエダイ



イラ

水槽で拾ったアフリカマナティーの歯



アフリカマナティーの下顎
ジュゴンのキバの断面



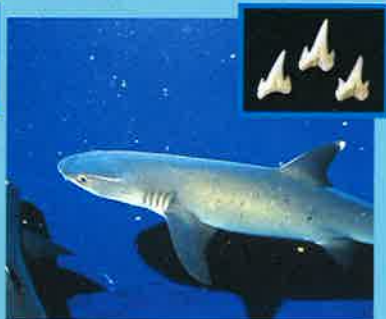
ジュゴンの下顎



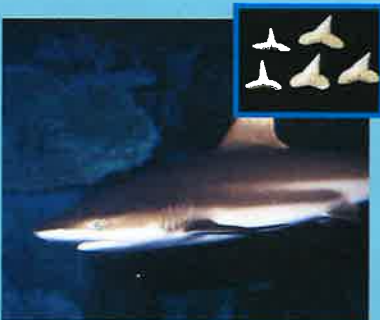
◀サメの歯の秘密



オグロメジロザメ



ネムリブカ



ツマグロ



ネコザメ

歯が生え替わるのは、なにもサメばかりではありません。ジュゴンやアフリカマナティーも歯が生え替わって知っていました

生え替わる歯

「オグロメジロザメ」の歯のようです。それよりちよつと小さな歯は「ツマグロ」のものでしょう。丸っぽい歯は貝などをすりつぶして食べる「ネコザメ」のものです。

さて、回収した歯をよく観察してみましょう。一番大きな歯は

「オグロメジロザメ」の歯のようです。それよりちよつと小さな歯は「ツマグロ」のものでしょう。丸っぽい歯は貝などをすりつぶして食べる「ネコザメ」のものです。

水族館にいる生きものの中で「歯」のイメージが強いのは何と
いても「サメの仲間」ではないでしょうか？歯がむき出しにな
った大きな口で人を襲う有名な映画の1シーンを思い浮かべた方
もいるでしょう。サメの歯は生え替わることで有名です。実際に
サメの口を観察してみると、最前列の歯の後ろに次の歯が並んで
いる事に気付くはずですよ。サメの歯は抜け落ちると次の歯がせり
出してきて、生涯なくなることはありません。また、種類によっ
てはその一生のうち三万本もの歯が生え替わるといいます。虫
歯で困っている人間にしてみれば何ともうらやましい話ですね。

サメの歯はいつまで

まずは質問です。皆さん、人間の歯は一体何本あるかご存じで
すか？さあ、口の中を見てみましょう。上下のアゴにきれいに並
んだ歯。正解は…というと32本になります。この数字は親不知を
足した数なので人によっては28本という方もいるでしょう。人は
乳歯から永久歯へと一度だけ生え替わります。でも、生きものに
よっては、その生え替わりが生涯続くものもあります。

人間の歯



イッカク



イッカクのアップ



ワニグチツノザメ



ワニグチツノザメの歯



◀サザエ



ホホジロザメのレプリカ



ホウライエン

サザエの口

深海魚の歯もかなりスゴイですよ。新しく登場した深海のコーナードその歯を標本でじっくり観察することができます。さあ、よく見てくださいね。特にホウライエン！ユニークな歯が生えているのが分かりますか？これは捕らえた獲物をしっかりと食べるための工夫だと考えられます。もちろんその他の水槽に泳ぐ魚たちだっているいろいろな歯があつて個性派ぞろいですよ。

水槽のガラス面をサザエが移動をしています。そのサザエの口をよく見てみると、何やら懸命に食べているのに気づくはずですよ。実は、サザエは食べものとなるコケなどを岩の表面からかじりつつしています。その時活躍するのが「歯舌」といって細かな歯がやすりのようになっているんです。こうして歯だけをみて、生きものの不思議がいっぱい詰まっているんですね。いやはや、今回もあっぱれ！なのです。

さあ、館内で歯を観察してみましょう。もちろん、生きものたちばかりでなく剥製や骨格標本でだつてじっくり観察することができますよ。ところで皆さんは「イッカク」という動物を知っていますか？長い角が一本生えているクジラの仲間です。よく間違えられるのは、あの長く伸びたものは「ツノ（角）」ではなく、前歯だつて事実。この歯は、左側の歯が成長するにつれて伸びたものです。生えている位置も真正面ではなく、少し左側から生えていることに剥製をじっくり観察してみるとわかりますよ。さらに、古代の海ゾーンで見上げてみるとそこには大きなホホジロザメのレプリカが展示されています。本当のサメの歯は観察しづらいかもしれませんが、レプリカなら大丈夫！じっくりみてくださ

か？彼らは草食動物で、エサとなる海藻や水草をすりつぶして食べています。歯は「水平交換」といって、一番前の歯が落ちると前へと歯が移動する生え替わり方をしています。ジュゴンはある程度成長すると、歯の生え替わりがとまってしまいますが、アフリカマナティの場合は生涯続きます。実際、アフリカマナティは水槽で潜水掃除をしていると、水平交換によって抜け落ちた歯を拾うことがあります。

水族館で歯を観察してみよう

TSA 特別講座

11

●このコーナーでは鳥羽水族館で飼育している動物や展示に関する話題を、各分野で活躍されている方々に紹介していただきます。



カメ（右からホウシャガメ、クモノスガメ、ヒラオリクガメ）

一寸待った、その「お土産」は大丈夫？



大西 正浩
 (財務省 名古屋税関 業務部 課長補佐)

おおにし まさひろ=1960年、三重県生まれ。1979年名古屋税関に入関。前任地の関西空港税関支署を経て現職。

「海外旅行は楽しいな…」

さてお土産には…」

海外旅行に楽しいショッピングはつきものです。しかし、外国では普通に売られているもの、日本には持ち込めないものがあります。日本は、ワシントン条約に加盟して、この条約に基づき厳しい規制があり、旅行者にも責任ある行動が求められます。ワシン



象牙の彫物

トン条約で規制されているものを持って帰国されますと、日本国内に持ち込めないこととなります。せつかく買ってきたお土産などを手放さなければならぬばかりか、買った代金も戻ってこないこととなります。

「ワシントン条約って何ですか？」

「絶滅のおそれのある野生動物の種の国際取引に関する条約」(「Convention on International Trade in Endangered Species of Wild Fauna and Flora」というのが正式名称で、英文の頭文字をとって、「CITES」(サイテス)とも略称しています。なお、1973年、ワシントンにおいて採択されたことから、我が国では通称「ワシントン条約」と言っています。



税関で摘発されたものの一部

「なぜワシントン条約該当のものは輸入できないのですか？」

多くの野生動植物が、絶滅の危機に直面しているのにもかかわらず、野生動植物とその製品の売買は、世界的に増加傾向にあります。このような事態をなくしていくために作られたのがワシントン条約です。絶滅の危機にある野生動植物（約3万種）は、この条約によって国際間の取引が禁止、または制限されています。

「条約で規制されているものは何ですか？」

1. 野生の動物

海外では、美しい鳥やかわいい動物など、ペットとして持ち帰りたくなるような生き物を店頭に並べているところがあります。しかし、ワシントン条約の規制を受けているものが少なくありません。例えば、オウム、インコ類。こうしたものは、ほとんど全てが規制されています。

2. 野生の植物

世界には、絶滅の一手前前という植物が2万種以上あるといわれています。特に野生のサボテン科、

ラン科、ソテツ科の植物は、全て規制対象となっています。

3. 加工品

ワシントン条約で規制されているのは、生きている動植物だけではなくありません。体の一部、例えば爪や肉、皮、骨であっても、日本に持ち込めないものがあります。

さらに、加工品も規制の対象になります。毛皮、ハンドバッグ、ベルト、靴、彫刻品、アクセサリー、漢方薬なども含まれるので、それらを買うときには注意する必要があります。

「名古屋税関で摘発されたワシントン条約該当物品はありましたか？」

平成16年6月に名古屋空港税関支署でタイ王国から入国した日本人がシヨルダーバッグの中にワシントン条約該当の生きたカメ2匹（ハミルトンクサガメ）を密輸入しようとした事件を摘発しています。



ボア

す。また、平成15年の9月と11月にも、それぞれ30匹（カメ）、64匹（カメ、ヘビ、サルなど）を摘発しています。

条約で規制されている物品の輸入手続はどうするの？

ワシントン条約に基づいて、動植物の多くのものが輸出入の規制対象となっていますが、この条約で定めた機関（管理当局）の発行する書類等（輸出許可証、輸入承認証など）がある場合に限り輸入できます。条約締約国には、条約に基づく権限を持った管理当局がありますから、輸入する前に必要な書類等をそろえておく必要があります。我が国では経済産業省がそれにあたります。水際での取締りを担当している税関では、迅速・適正な輸入のために条約に該当する物品の輸入手続を行う官署を限定し、これらの官署に専門の担当者を配置しています。名古屋税関における指定税関官署は次のとおりです。

- ◎ 海上貨物の場合 本関 電話：052-654-4100
- ◎ 航空貨物の場合 中部空港税関支署 電話：0569-38-7600
- ◎ 外国郵便の場合 名古屋外郵便出張所 電話：052-529-3121

遊

地球で

●第6回●

うちやま
内山 りゅうさん

身近な自然の面白さを
見つめる写真家

ぼう！

田んぼはカエルの楽園だ！

田んぼは、我々日本人の主食であるお米を生産する場所です。私の育った東京でも、郊外に行けば多くの田んぼが広がっていました。子供の頃は、アマガエルやシマヘビ、ドジョウなどがよく見られたものです。私は7年前に東京から南紀に移住しました。大阪などからも遠い南紀には、まだまだ自然が多く残っていることが移住の理由の一つです。和歌山に住んで数年が経った頃より、折をみて田んぼに出掛けるようになりました。そこには、今まで見たことのないオタマジャクシの姿がありました。小さな網ですく

とオタマジャクシが採れました。早速持ち帰って種類を調べようと思ったのですが、カエルの載っている本は沢山あるものの、どれもオタマジャクシを調べることはできませんでした。私もいくつもの図鑑を手掛けてきましたが、オタマジャクシの情報はありませんでした。そこで、田んぼに生息するオタマジャクシを調べてみようと思い、はじめは、沢山捕まえてきたオタマジャクシを顔や形を観察しながら簡易的に分けて飼育していました。しかし、感覚で分けてはみたものの、オタマジャクシは成長過程で随分と雰囲気（ぶんいき）が変化することがわかり、卵の状態から成長を追わないと同定はできないと思われました。結局、その年のオタマジャクシの撮影は失敗に終わりました。翌年は、卵の状態を採集し、卵からオタマジャクシの成長を観察することになりました。カエルたちの卵にも様々なタイプがあります。一つながりのヒモ状となるニホンヒキガエル、水面にバラバラに生むアマガエルやヌマガエル、塊（かたまり）となるトノサマガエル、アカ

ガエル類、水面にシート状に広がるウシガエル、マシユマロのような泡に包まれるシュレーゲルアオガエル、モリアオガエルなどなど。同じように、よく似たオタマジャクシもよく観察すると随分と違うことも分つてきました。慣れてくると、アマガエルなどは目の間隔（かんかく）が特に広く、特徴的な顔をしているので、すぐに区別がつくようになります。また、背中



田んぼのトノサマガエル

一匹のカエルは小さい存在ですが、

食物連鎖の中では重要な存在といえるでしょう。

紋や尾の長さなどで殆どの種類が分かるようになりまし。ちようど、田んぼの生き物の本を製作することになったので、本州の田んぼで見られるカエルを対象とし、地元にはない種類は採集に出掛けました。こうして集めた種類は12種にも及びました。本州には17種類のカエルが生息していますが、4種を除けば、残りは全て田んぼを何らかの形で利用して生きています。まさに田んぼは、カエルたちにとつての楽園なのです。田んぼが楽園となる理由の1つには、カエルたちが食べる餌が豊富にあることが挙げられます。その大半が昆虫類ですが、それには稲とつての害虫であるウンカ類やツマグロヨコバイ、イチモンジセセリなども多く含まれています。稲の害虫を防除するために大量の農薬を撒けば、同時に害にならない昆虫や他の生きものたちも死滅することを意味します。運良く生き延びたカエルも、餌がいなくなつては死んでしまつてしまう。

現在の田んぼでは、食の安全性が叫ばれ、農薬の使用を控える傾向にあるようです。それにより、以前よりもカエルが増えたという声も聞か

れるようになりまし。オタマジャクシが沢山増えると、それを食べるヤゴやタイコウチなどの水生昆虫、イモリなども増えるでしょう。カエルが増えると、シマヘビやヤマカガシなどのヘビもやつてきます。サギ類にとつてもカエルは大好物です。田んぼでは1匹のオタマジャクシや1匹のカエルは小さい存在ですが、「食う・食われる」関係を意味する食物連鎖の中では重要な存在といえるでしょう。最近の研究でも、田んぼ環境は実に多様で、多くの生き物たちを育む場所であることが分かってきました。オタマジャクシやカエ

ルの多い田んぼは、農薬の使用が抑えられ、よい環境が保たれている指標となつているともいえるでしょう。田んぼは単に「お米を生産する場所」だけでなく、多くの生き物を育てる機能ももっているのです。近年は「田んぼビオトープ」のような環境教育の場として利用する試みも全国で広く行われるようになってきました。

カエルを通して田んぼという環境を改めて見てみませんか。

筆者プロフィール

1962年東京生まれ。東海大学海洋学部水産学科卒業。淡水にかかわる生物や淡水環境の撮影をライフワークとする。主な著書は「日本の淡水魚」（共著・山と溪谷社）、「日本の両生爬虫類」（共著・平凡社）、「マルチメディア図鑑・両生爬虫類CD-ROM」（写真・学習研究社）、「日本産淡水貝類図鑑」（共著・ピーシーズ）など多数。写真集に「大山椒魚」（ピプロス）他がある。



アマガエル抱接



トノサマガエルのオタマジャクシ



アマガエルのオタマジャクシ

水槽百景

河口近くに広がるアシ原、ただ同じ景色が続いているだけのようない場所にも、一歩中に入ってみると驚くような世界が

広がっています。足下にはたくさんのか二たちがうごめき、巣穴が無数にあいています。浅い水中にはハゼの仲間や海水魚の稚魚たちが群をなし、砂を掘ると貝やイソメの仲間が出てきます。潮の干満の影響を受け、水に浸かったり干上がったり、さらには海水と淡水の両方の水が混じり合う、そんな特殊な環境に適応した多様な生きものたちの世界がそこにあるのです。

このアシ原でくらす生きものたちのおもしろさを紹介したい、そんな思いからこの水槽は作られました。

アシの根元や岩の間に隠れているのは、アシハラガニやハマガニ、クロベンケイガニなどのカニたち。石のすき間から顔を出すのはウロハゼやウキゴリ、チブなどハゼの仲間たち。そして群れて泳ぐボラの仔魚たち。さらに近づいてみるとイシマキガイやヘナタリガイの仲間、砂利のすき間を移動するイソメの仲間も見えてきます。広大なアシ原の全てを再現することはできませんが、この小

11

アシ原水槽



さな水槽にもたくさん生きものがくらししているのを発見してもらえることでしょうか。

実はこの水槽には生きものを展示するだけではなく、もう一つの目的があります。アシ原の動物を展示すると同時に、本物の植物のアシ(ヨシとも呼ばれます)を水槽内に生育させることです。アシ原のアシには動物たちに住みかや隠れ場所を提供するだけでなく、水を浄化したり、水分の蒸散によって気温を下げるなどの機能があります。しかし、人工的な環境の水槽内でアシを旺盛に生育させ、アシ原を再現した展示をすることは、まだ他の水族館でも実現していないことなのです。

太陽光に近い波長のライトを使用したり、干満をイメージした水位の変化をつけてみたり、水の塩分濃度を調節してみたりと、今はまだ試行錯誤の段階で、アシの生育に成功しているとはいえません。アシが順調に育ち、水を浄化するなど本来の機能を発揮するようになると、この水槽に小さなエコシステムができたと言えるかもしれません。

■飼育研究部 半田俊彦

人魚の棲む海

2

●トレス海峡(1)

■飼育研究部長 浅野 四郎



木曜島の港橋樑付近を望む、ここでもジュゴンが見られた。



金曜島の向かいにあるプリンスオブウェルス島。早朝ジュゴンが浜辺に引き上げられている。



島人が獲ったジュゴンの内臓諸器官を調べさせてもらう「神谷先生(左)と私」。

鳥羽水族館でジュゴンの飼育が始まって一年を経過した1978年の5月から6月に野生ジュゴン調査のため約一ヶ月間オーストラリア・トレス海峡の木曜島(Tuesday Island)、その他の島に滞在しました。調査には私と現副館長の古田正美、そして当時東京大学医学部に在職された比較解剖学の権威である神谷敏郎先生に同行していただきました。神谷先生は惜しくも昨年逝去されましたが現地で住民が獲ったジュゴンの解

剖を通して多くのことを教えていただき、その後のジュゴン飼育の基礎ともなっています。

オーストラリア北東部とバブアニューギニアの間に位置するトレス海峡は1606年にスペインの航海士ルイズ・バエス・トレスが発見して歴史が始まったといえます。木曜島はトレス海峡の南にある島でボタンの材料としてシロチヨウガイやタカセガイが潜水採取されていたことで知られ、明治時代から多くの日本人がダイバーとして移住していたことから日本に関わりが深い島です。近くには水曜島、金曜島があり1770年にキャプテン・クックが上陸した曜日をも島の名前にしたというのが定説となっています。

「木曜島は、遠い」の書き出しで始まる司馬遼太郎の紀行文「木曜島の夜会」はこの島でダイバーに従事した日本人の歴史が描かれています。小説の書き出しのとおり木曜島は遠く、夜の8時頃に羽田を発ちる魚(ジュゴン)の島として知られる木曜島に着いたのは翌々日の夕方でした。到着した翌朝さっそく海岸をまわってみたところ海辺にある集落の裏で短時間に6個体分のジュゴンの頭骨やその他の骨を拾い集めることができました。今回の調査に出発

する直前にジュゴンの全身骨格標本を完成させたところでしたが、このことは拾い集めた骨の確認に大いに役立ちました。また私たちは金曜島にある真珠養殖会社の宿舎を拠点として調査活動を行ったのですが、この島の桟橋近くにもまだ肉の付いたジュゴンの骨がころがっており、それまで聞いていた「村で何か祝い事があるときだけ島人にジュゴン獲りが許される」という認識が早くも崩れ始めました。

ジュゴンは船の往来の激しい木曜島の港でも見られ乗船時に足元に急に浮上してきて驚かされることもあります。周辺の海域は底が砂泥でウミノヨウブが生えています。長くて幅が広くかたい葉のウミノヨウブはジュゴンがあまり好まないような海草ですが、調べてみるとすべてが刈り取られたように短く、ジュゴンがウミガメが食べたあのような状態でした。後に捕獲されたジュゴンの口中にこの種の海草が残っていたためジュゴンの食草として確信がもてましたが、他の海草が繁茂している状態も認められず量的にも少ないため、この海域のジュゴンがこれだけを食べて生きているということが不思議に思われました。(続く)

獣医のきもち

6

記録は宝物

飼育研究部 長谷川 一宏

おりません。

◀白浜に行くために水から上げられるくるり



2005年4月18日にイロワケイルカのくるりが、和歌山の白浜アドベンチャーワールドに引越しました。このように鳥羽で暮らしていた動物が、他の水族館や動物園に行く場合は両方のスタッフが付き添うのが普通です。しかしくるりの引越しがせまってきた頃には、鳥羽水族館ではスナメリの出産が今日か明日かと待たれていたのです。出産はなかなか正確な日を予測することができません。何人かの職員がくるりに付き添って、居残り組が手薄な時に出産ということになると困るので、今回は白浜のスタッフだけにくるりに同行してもらうことにしました。

バンドウイルカやシャチの飼育では実績を残しておられるアドベンチャーワールドですが、イロワケイルカは今回が最初の飼育でした。当然その輸送の付き添いも初めてのことです。先方の獣医さんから、イロワケイルカを運ぶ際の注意点や輸送の時の薬品の使用経験について質問を受けました。鳥羽水族館ではこれまで4回、イロワケイルカを長距離輸送したことがありますが、私が参加したのはそのうちの2回で、最近のものでも9年前になります。細かいことをなかなか正確には覚えて

こんな時のために記録があります。普段の飼育記録ももちろん重要ですが、何年かに一度しか経験できない輸送や治療の記録はさらに貴重です。しかし…。見つからないのです、必要とする記録が。白浜の獣医さんが一番知りたかったのは、輸送の時に鎮静剤を注射したことがあるかどうかということでした。私が同行した時には鎮静剤は使っていません。それは覚えていません。鎮静剤は、海獣類に使用する時にはかなり度胸を決めて緊張感を持って使わなければならないので、その記憶はあったのです。問題はそれ以外の時でした。そのうちの1回については、同行したスタッフが鎮静剤は使用していないということ覚えていました。

さてわからないのは、イロワケイルカを生息地マゼラン海峡から運んだ時のことです。困ったことに付き添ったスタッフはもう在職していません。しかも輸送の記録も見当たりません。当時の職員に電話で聞いてみました。幸い彼が輸送の記録の控えを持っており、すぐにそれを水族館に送ってくれました。鎮静剤は使っていたのです。それによる副作用もなかったことがわかりました。

これは水族館の飼育スタッフとしてはかなり恥ずかしいことでした。しかも私は、とても貴重な記録になり得るカルテ（治療記録）を管理する立場にある獣医師です。今回のことを肝に銘じて、ささいな投薬もまめに記録する習慣を身につけたいものです（今は100%はできていないのですが）。それが後々役に立つことは、自分が一番実感しているのですから。

書き忘れていましたが、くるりは無事アドベンチャーワールドに到着し、スナメリの赤ちゃんは何とくるりが出発する日の早朝4時に生まれたのでした。

種名	SEX	名称	生年月日
アザラシ	♂	ハート	5.11.7
年月日	症状		
'88 6-13	<p>右前肢が曲がる 右前肢を上げると 右前肢脱臼、右前肢に脱臼感 腺の方が高くなる様で、 右前肢は脱臼等のまは また正常に戻す。全快</p>		
5.13	スナリア予防		

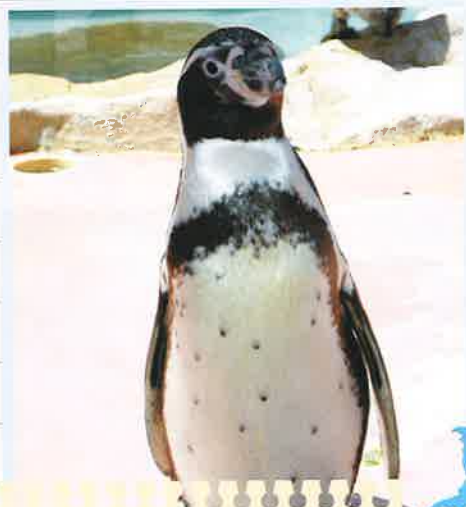
手書きで、スケッチも記入されている鳥羽水族館のカルテ

鳥羽水族館いきもの図鑑

その6

特徴のある3羽！
フンボルトペンギンの「ルル」「小麦」そして「ハチマユ」

やっぱり似ている！？親子ペンギン



プロフィール

●母 ルル

生年月日 1993年5月22日（鳥羽）

性別 メス

特徴 おなかの黒い点が逆さ涙型なのがポイント



プロフィール

●子 小麦

生年月日 2001年4月3日

性別 不明

特徴 右のフリッパーにある青色のタグが目印。お散歩が大好き！！

みいーつけた!!八の字マユゲ



プロフィール

●ハチマユ

生年月日 1989年3月20日

来館 1990年6月26日

性別 メス

特徴 八の字マユゲが目立つことから“ハチマユ”と名付けられた。現在、当館で最年長！！



フンボルトペンギンは水の回廊でご覧いただけます。

ある日ホームページで
通信販売を見ていたパー子



通販って一体どんなところだろう。
よし、今回は通販事務所にいこう!!

ここが通販事務所。お客さんから注文が入るとここで商品を発送するんだ。たくさん注文が入る日は1日中発送に追われることもあるんだって。商品は貝殻だけでも2000種類!! 地味だけど大変な仕事だよね〜。



パー子の ちょっと おじゃましま〜す

第11回
つうしんはんばい
通信販売

このコーナーでは毎回、
鳥羽水族館のいろんな場所に
パー子がおじゃましてレポートします。



ほら、みてみて。外国から届いた荷物。世界20ヶ国と取り引きがあるんだよ。それから、仕事は仕入れから発送・管理まで何から何まで自分たちでやるんだって。



ここだけの話

絶景!! 窓を覗けると海風が。
気持ちいい〜。

昔は倉庫だった。
ほら、パイプがめき出し。



通信販売をご利用の時、合言葉を言うか書きとめと、なつかしのE112キトカゲコインプレゼント!! 期限は2005年7月31日まで。合言葉は「TSAを見た」。もちろん私も待ってるよ〜。



体験ごと水族館 5

親子それぞれの視点で、イロワケイルカ飼育に挑戦！
井上郁子さん、満蒼子さん

ここまでやるの？ エサの準備

まずはエサの準備。山のように積まれたアジを一瞬の判断を頼りに大・中・小の3サイズに分けました。そのあとで1匹あたりの重さを数g単位までたすのには驚かれました。



はかりの前では、☆がから☆をひいて…とつい独り言がもれてしまいました(笑)それと、このときに昼や夕に与える分も準備してしまっんですね。



ほおっ、見事な手さばき

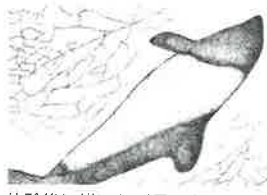


ボールの重さを引いてね

大切なコミュニケーション

彼らを目の前で思ったのは見分けることの難しさでした。しかもそれぞれに個性があつて、

様子を見ながらエサを与えるのには手を焼きました。言葉でこ



体験後に描いたイラスト

コミュニケーションがとれない分、きめ細かく見ながらも広くまわりを気にすることが必要なんだなあと感じました。2回目の給餌はイルカのほうが学習してくれたようで、やり方の



ねえ、まだなの？



へたくそな私にもちゃんと近づいて食べてくれました。人よりもイルカのほうが賢いですね。



細かいことも迷わずに記録

飼育スタッフより

おふだりの動物好きがよく伝わって来ましたが、仲のいい親子だなーと感心していました。餌アジのサイズを分けるのも速かったですし、はかりの目盛りも素早く読めていました。明日からでも動いてもらえそうでしたよ。将来はイルカの仕事をしたいというお嬢さんの夢、是非、実現してください。



当選結果

応募者多数の場合は抽選とし、当選者には8月8日までに電話連絡いたします。どしどしご応募下さい(編集部)。

応募方法

〒517-8517
鳥羽水族館 (住所不要)
TSA編集部
『ジュゴン』飼育体験一係まで

条件

官製八ガキに応募券(本頁右下)を貼ってお申し込み下さい。名前(必ず2名1組)、住所、年齢、性別、電話番号を明記。締切は2005年7月31日到着分まで有効。

次回は最終回

『ジュゴン』
飼育体験募集!



LETTERS FROM READERS

読者のページ



☆読者の皆様からのお便りを、お待ちしております。
(送付封筒うら面のハガキをご利用下さい。)
鳥羽水族館の思い出、質問何でも結構です。
採用させていただいた方には記念品をお送りいたします。

〈あて先〉
佐野 敬子さん (大阪府) 〒517-8517 鳥羽水族館 【T.S.A.】編集室

水族館好きの私としては、関東近郊の水族館はよく行くのですが、鳥羽水族館には一度しか行ったことがありません。またいつかきつと鳥羽水族館に行かれることを願って(ちよつと大袈裟ですか???)います。また、飼育日記もとっても楽しく拝見しています。いろんな海の生き物が見たくなって思わず?スキューバダイビングのライセンスをとってしまつたほどなんです。で

★
2004年12月30日に初めてこちらの水族館に伺いました。やはりその規模はさすが、と言つたものでした。個人的にインパクトが強かつたのは「青いザリガニ」です。写真を撮ろうと思つたら、とても人気があつてその水槽の前から人がいなくなることがありませんでした。マナテイルがいることにも驚きました。ジュゴン是有名ですがまさかマナテイルまでいるとは、まいました(笑)。自分は魚大好き人間ですのでどの水槽もとても楽しめました。ですが、自分が探した限りでは特に大好きなイソギンポ科の魚がまつたく見られなかつたのが残念でした。とっても可愛いのでみなさんに見てもらえるよう、ぜひとも展示してほしいです。

●東京都 村瀬 敦宣さん

表紙のラッコの赤ちゃんの可愛さにもまずメモメモにされました。「赤ちゃん」つてどうしてあんなに可愛いのでしょうか。今回もいろいろな生きものや巨大エチゼンクラゲの記事など見ごたえ、読みごたえがありました。これからも「鳥羽水」のこと「不思議・びっくり・大集合」な水の生きものを知りたいのでまた継続してお申し込みさせていただきます。そこで、定期購読にも書いたのですが、今一度「50周年だよ!鳥羽水族館」50年!すこいです!TSAもあと少しでNo.50ですね。No.50は記念特別大号になるのでしようか?TSAが届くたびに「鳥羽水族館に行きたい!そしてモモちゃんとお散歩がしたい!」と思つております。以前、行ったのは確かバルケエスパーニヤがまだ出来たてホヤホヤの頃……。

★
は、これからも皆さまのご活躍を願つております。

●東京都 菊池 直美さん

鳥羽水族館は、1回しか行ったことがありませんが、とても広くて私は鳥羽水族館が大好きになりました。そして、イロワケイルカが大好きになりました。また行きたいです。

●長野県 丹羽 愛実さん

★ついに創立50年を迎えました!!お祝いのお言葉をくださった皆さま、ありがとうございます。これからも皆さまに楽しんでいただける水族館を目指します。それでは皆さまお手を拝借。今後の鳥羽水族館に……「よっつ、ぱん!」ありがとうございます!!



加藤 裕美さん (神奈川県)

★
今年こそは行きたいと思つております。鳥羽水族館に行けるその日まで「モードの「飼育日記」と「超水族館クラブ」のエッセイを読んで皆様のお仕事ぶりを励みに、またウラ話を楽しみに、そして、もつちちゃんの「おすすめ」ももちろんエックしながら頑張りたいと思います。それでは皆様、お仕事(夜のお仕事も)お忙しいと思いますが、くれぐれもお体を大切にしてください。

●群馬県 瀬下 奈津美さん

イベント紹介コーナー

このコーナーでは、鳥羽水族館のこれからのイベントを紹介します。もちろん、このコーナーで紹介できなかったものも、まだまだたくさんあります。表紙裏面のスケジュールと合わせてご覧ください。



申込み方法が記入していないものは、往復はがきでのお申し込みとなります。住所・氏名・年齢・電話番号をご記入の上、お送りください。(1枚で5名様まで可)
応募者多数の場合は抽選となります(抽選結果は返信はがきにて通知)
〒517-8517 鳥羽水族館「〇〇〇〇係」まで(参加希望のイベント名記入をお忘れなく。)

その1

ミステリーツアー

館長室にきらめく幻の宝石「人魚の星」が何者かの手により盗まれた。スタッフと共に水族館をめぐるながら情報を集め、みんなで謎解きに挑戦しよう!

日にち：2005年7月25日(月)～29日(金)

2005年8月22日(月)～26日(金)

時間：12:30～13:00

募集人員：15名(先着順)

対象：小学生以上(保護者同伴の場合は幼児も可)

申込み：当日館内インフォメーションにて

参加費：入館料金のみ



その2

夏休み海藻おしば教室

海藻^{かいそう}って、じっくり見たことありますか?手に取ってみると、とてもきれいなものがたくさんあるんです。そんなきれいな海藻を使って自分だけのオリジナルハガキを作ってみませんか?暑中見舞いハガキにぴったりです。

日にち：2005年8月7日(日)8日(月)

対象：5歳以上(小学生未満は保護者同伴)

募集：40名

締切：7月23日(土)必着

参加費：入館料金+ひとり100円



その3

コーラルリーフ大水槽を見よう

鳥羽水族館で最大のコーラルリーフ大水槽^{すいそう}をじっくりとウラからのぞけるチャンスです。担当スタッフが皆さまに水槽の仕組みをご案内します。見た瞬間^{しゆんかん}、きっと感動しますよ。

日にち：2005年9月19日（祝）23日（祝）

時間：10：00／11：00／12：00

／13：00／14：00

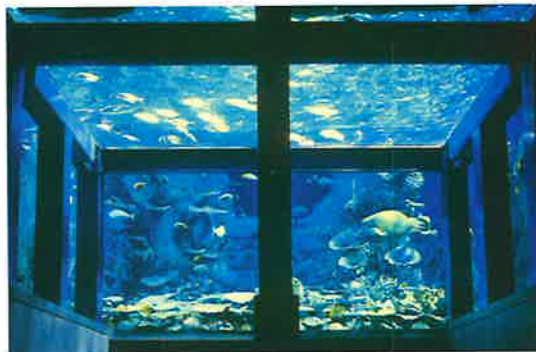
所要時間：約20分

募集人員：20名（先着順）

申込み：当日インフォメーションにて

対象：小学生以上（保護者同伴の場合幼児も可）

参加費：入館料金のみ



その4

水族館に泊まろう

今年は当館に泊まれる企画が3つもあります。もちろん参加者だけの貸し切り水族館です。どこで寝るのかって言うと…なんと大水槽の真ん前！！生きものたちの可愛い寝姿^{ねすがた}をゆっくり見る絶好のチャンスです！

★『家族で泊まる水族館』

日にち：2005年

10月29日（土）～30日（日）

対象：こども（5歳～12歳）と保護者

募集：60名（最少催行人数40名）

締切：10月15日（土）必着

参加費：おとな6000円・こども4000円

★『大人限定!!どっぷりゆったりお泊まり水族館』

日にち：2005年

11月5日（土）～6日（日）

対象：18歳以上

募集：40名（最少催行人数20名）

締切：10月22日（土）必着

参加費：7000円

★『中学生だけのお泊まり水族館』

日にち：2005年

11月12日（土）～13日（日）

対象：中学生・高校生（要 保護者承諾書）

募集：40名（最少催行人数20名）

締切：10月29日（土）必着

参加費：7000円



※寝袋をご持参ください。※お風呂はありません。

出来事

■平成16年12月1日～平成17年5月31日

- 12月**
- 5日 ●飼育日記読者限定イベント
 - 10日 ●コシグロペリカン4羽入館
 - 15日 ●コビトカバ「アヤメ」入館
 - 22日～翌年1月16日 ●干支にちなんだ貝を飼育展示
 - 25日～翌年11月13日 ●企画展プロジェクトD
～ジュゴン飼育不可能への挑戦！～
 - 27日 ●トドの「ロゼ」入館
- 1月**
- 1日～3日 ●フンボルトペンギン「小麦」とモモイロペリカン「モモ」と一緒に干支の記念撮影会
●めでたいもちつき
 - 1日～12月31日 ●ひとで展
 - 23日 ●アシカショーの前座にモモイロペリカンの「モモ」が初登場
★メガマウスザメが紀勢町錦沖で捕獲される
●節分水槽展示
 - 27日～2月13日 ●飼育係のものしり講座①「毛」
 - 11日～13日 ●近くでジュゴンを見よう
 - 14日 ●バレンタインチョコプレゼント
 - 16日 ●アシカショーで確定申告のPRショー
 - 24日～3月6日 ●ひな祭り水槽展示・らっこびな
「ラッコのメイの初節句」展示
- 3月**
- 26日～27日 ●飼育係のものしり講座②「人魚のサイフ」
 - 30日～4月12日 ★めだかの学校水槽展示
- 4月**
- 2日 ●ちよこつとエサやり体験 (4月・6月毎週土日)
 - 2日～3日 ●親子で泊まる水族館
●フンボルトペンギン「小麦」とモモイロペリカン「モモ」のお誕生日パレード
 - 10日 ●コビトカバの「アヤメ」死亡
 - 18日 ●スナメリの赤ちゃん誕生
●イロワケイルカ「くるり」アドベンチャーワールドへ移動
 - 23日 ●田んぼ水槽の田植え
 - 25日 ●アシカショーステージ改修工事完了、アシカショー再開
 - 29日 ●深海コーナー「もう一つの極地…深海」オープン
●カリフォルニアアシカ「ビート」がショーデビュー
●5ザリンジャー登場！色変わりのアメリカザリガニ5点展示開始
- 5月**
- 29日～30日 ●飼育係のものしり講座③「歯」
 - 1日～16日 ●こいのぼり水槽展示
 - 7日～8日 ●飼育係のものしり講座④「脱皮」
 - 9日 ●ラッコの「メイ」の1歳の誕生日・イセエビと流水をプレゼント
 - 14日 ●海辺の観察会「がんべき探検隊」
 - 15日 ●創立記念日
●85本と56本足のマダコ標本再び展示
 - ～12月31日 ●50周年特別パネル展
 - 27日 ●県内初記録のコマッコウ(死体)が持ち込まれる
 - 28日～29日 ●お泊まり水族館

★CLOSE UP★

めだかの学校水槽展示



桜の花が開花して新入学シーズンを迎えた3月30日から2週間、館内メインストーリートにちよつと変わった「めだかの学校水槽」を展示しました。水槽内には学校の校舎や運動場、鉄棒があり、元気に泳ぐめだかたちは新入学生を想像させるようで楽しい気持ちになります。校舎の前にはメダカが尊敬する「二宮ケロ次郎(カエル)」の銅像が建ち、春休みの子供たちだけでなく、二宮金次郎を知っている大人の方からも好評を頂きました。

(半田)

ちよこつとエサやり体験



大水槽の魚たちにエサやり体験ができるツアーを開催しました。エサやり体験は今回が初の試みです。飼育スタッフがクイズを交えて水槽や魚の解説をした後、エサやりをしていただきました。名前通りエサはちよこつとしかありませんが、そのエサを大事そうに少しずつあげる方、気前よく一気にあげる方とそれぞれでした。みなさん自分のあげたエサを食べる魚たちを見てとても嬉しそうでした。

(増田)

メガマウスザメが紀勢町錦沖で捕獲される

1月23日午前5時、メガマウスが紀勢町錦沖の水深200mで巻き網に掛かったと当館へ連絡が入り、直ちに漁港に向かいましたが既に死亡していました。この個体



は全長528cmのメスで、三重県で3番目の記録です。世界では27番目に記録されたメガマウスです。近い将来、このメガマウスを剥製にするために冷凍保存の後、剥製業者へ輸送しました。三重県での初記録は1997年4月30日に尾鷲市の三木崎沖で、2個体目は1998年4月23日の御浜町阿田和沖で捕獲されています。(古田)

■編集後記■

鳥羽水族館50年の歴史を振り返ってみると、「いろいろあったんだなあ〜」とつくづく思います。でも、これって大昔の話じゃなくて先輩飼育スタッフの皆さんがすべて経験してきた出来事なんですよね。私はその水族館のスタッフであるんですけど、ほんととスゴいんだなあって思います(笑)

(高村)



3歳にして初めての潮干狩り体験。浜にいる人ざっと数えて500名。その隙間をぬってあちちをホリホリこっちをホリホリ。でも30分で飽きちゃいました。結局はずーっとコブシガニというカニ探しにはまっていました。それにしても青天下のアサリ汁は格別!

(高林)



大水槽の魚たちにエサをあげる機会がありました。エサやりなんて新入社員の研修時以来です。私のあげたエサを食べてくれる魚たちにちょっと感動。また機会あるかな。

(増田)

●次号No.48は12月下旬発刊予定

TOBA SUPER AQUARIUM
2005 夏 No.47

発行人/中村 幸昭

発行所/鳥羽水族館
〒517-8517 鳥羽市鳥羽3-3-6
TEL 0599-25-2555

編集長/古田 正美

編集委員/高村 直人
高林 賢介
増田 富友美

印刷/(株)アイブレーン

©本誌の掲載記事、写真等の無断複写・複製転載を禁じます。

みんなの地球を大切に!
この本は再生紙を使用しています。



© TOBA AQUARIUM

スナメリの赤ちゃん誕生

4月18日午前3時59分、昨年11月に伊勢湾で捕獲されたスナメリが、オスの赤ちゃんを出産しました。一時は乳母役として同居していたメス2頭が、母親から赤ちゃんを奪うこともあり、どうなることかと冷や冷やしました。急速に乳母役のメス2頭を他のプールへと移動し、現在のところは順調に育児が行われています。



赤ちゃんは1時間に数回オツパイを飲み、今ではプクプクに太っています。

(若林)

飼育係のものしり講座「毛」

飼育係のものしり講座がはじまりました。この講座では見ているだけでは分からない生き物について飼育係がテーマを決めて直接お話をするというものです。第1回のテーマは「毛」ということで、2月11日(金)〜13日(日)の3日間にわたりラッコの毛の秘密について行いました。合計103名の参加者は教材として配布された本物のラッコの毛の感触に驚かれています。ラッコが寒さから身を守り、水に浮く仕組みなどを学んでいたいただきました。また、最後にはお守り袋とラッコの毛をブレゼントし、ラッコのように「沈まない上向き人生」の為に守りとしていただきました。

(石原)



